山協ニュース

一般社団法人岩手県山岳協会
第 206 号
平成 30 年 8 月 31 日発行
http://long-distance.jp/sangaku/

伊藤ふたば選手アジア大会第４位

世界で活躍

インドネシアで開催された第 18 回アジア競技大会スポーツクライミングコンバインド種目で伊藤ふたば選手は連戦の疲れの中、健闘し、スピード４位、ボルダリング２位、リード４位となり、総合４位でした。メダルこそ逃しましたが、立派な成績を収めてくれました。健闘を称えたいと思います。

スポーツクライミングは、アジア競技大会の新競技で、壁を登った速さを競う「スピード」、登った課題の数を競う「ボルダリング」、登った高さを競う「リード」の３種目の総合成績で争う「複合」で、２年後の東京オリンピックでも実施されます。

8 月 26 日、女子複合の予選を通過した６人による決勝が行われ、日本は野口選手と伊藤選手が出場。

野口選手は、最初のスピードで６位と出遅れましたが、次のボルダリングでワールドカップ総合優勝４回の実力を発揮し、ただ一人、４つのコースすべてを最後まで登りきって１位。最後のリードでは２位でした。

総合成績は３種目それぞれの順位の数字をかけ算して数字の小さいほうが上位になります。野口選手はスピード６位、ボルダリング１位、リード２位で 12 ポイント、韓国の選手が１位と４位と３位で 12 ポイントと並びましたが、野口選手は上位になった種目の数で上回って総合１位となり、金メダルを獲得。

今年から盛岡中央高校に進学、16 歳で日本代表の一員としてジャパンのユニフォームを着てワールトガップ、世界ユース選手権、アジア大会等世界を転戦している伊藤選手の活躍を紹介します。

今年６月に八王子で開催されたワールドカップでは見事 6 位入賞を果たしました。また、ロシアで開催の世界ユースでは昨年のランクをひとつ上げてユースＡに出場。リード２位、ボルダリング３位と確実に表彰台をとらえ、世界のトップクラスとの試合で経験を積んでいます。

引き続き皆さんの応援をお願いします。

第 1 回コンバインドジャパンカップ 2018 盛岡大会開催

2020 東京オリンピック正式種目の日本で初めての開催となるスポーツクライミングコンバインドジャパンカップ 2018 盛岡大会が、6 月 24 日（土）と 25 日（日）の二日間、県営運動公園登攀施設と県勤労身体障がい者体育館を会場に開催されました。

今回のコンバインド(複合）大会は、昨年から県営運動公園にスピード施設が整備されたのを契機に、岩手県、盛岡市、協会で(公社)日本山岳スポーツクライミング協会に開催要望していたものです。

東京オリンピック正式種目としてのスポーツクライミングコンバインドは、ボルダリング、リード、スピードの三種目での総合成績で順位を競うもので、特にスピード競技はまだ国内でなじみの薄い競技で、日本にとってこれからの競技です。

大会は、多くの日本代表選手が出場するとあって、メディアも八王子でのワールドカップに匹敵する 6 月 23 日、84 名（36 社）6 月 24 日、96 名（41 社）が来場。

【女子】

野口啓代、野中生萌、伊藤ふたばの各選手をはじめ一線級の戦いとあって予選から白熱。スピートは予選１位の伊藤ふたば選手が決勝でも 10 秒 58 のタイムで１位通過。次のボルダリングでは、女王野口啓代選手やワールドカップ総合優勝の野中生萌選手らの追い上げが始まった。最終種目のリードは各選手の疲労も極限。

優勝の野口啓代選手

各選手のパフォーマンスが落ちているなか、若手の谷井菜月選手が高度 39＋でトップ。野口選手は高度 37＋で 2 位、伊藤選手は、高度 36＋3 位となり、リードの成績で初代チャンピオンはベテラン野口選手に決まる。

女子成績

順位	名前	予選					決勝			
		S	B	L	Pt.	順位	S	B	L	Pt.
1	野口 啓代	4	1	2	8	2	3	1	2	6
2	伊藤 ふたば	1	2	3	6	1	1	3	3	9
3	谷井 菜月	7	4	1	28	4	4	4	1	16
4	野中 生萌	2	3	4	24	3	2	2	5	20
5	倉 菜々子	3	6	6	108	5	6	5	4	120
6	栗田 湖有	6	5	7	210	6	5	6	6	180

【男子】

男子も、楢崎兄弟をはじめ緒方良行、原田海、杉本怜の日本代表の各選手によるトップクラスの戦いとなった。

スピードは、楢崎智亜選手が１位、緒方良行選手２位、楢崎明智選手 3 位となった。優勝の楢崎智亜選手は日本新記録の 6”87 を出すなど会場を沸かせた。

次の競技、ボルダー決勝では、３完登が４人。ゾーン対決となり楢崎智亜選手が優勝を勝ち得え首位に浮上。最後のリードでも、楢崎智亜選手がトップに迫る高度 37＋で１位、総合優勝を収めた。

優勝の楢崎智亜選手

男子成績

順位	名前	予選					決勝			
		S	B	L	Pt.	順位	S	B	L	Pt.
1	楢崎 智亜	1	2	21	42	1	1	4	1	4
2	楢崎 明智	4	13	1	52	2	3	1	2	6
3	緒方 良行	2	10	7	140	4	2	2	3	12
4	原田 海	5	5	9	225	6	4	3	6	72
5	杉本 怜	13	3	5	195	5	6	5	4	120
6	高田 知弗	24	1	3	72	3	5	6	5	150

表彰式には、達増拓也岩手県知事、谷藤裕明盛岡市長も出席し選手の活躍に声援を送った。

【運営】

一日に三種目をこなすコンバインド大会は、選手も競技役員も初めての経験であった。ジャパンカップ、全日本、ワールドカップ八王子大会と大きな大会が続く中での開催。関係機関の調整も短期間で行わなければならないなど、やきもちする場面もあったが、これまで国体、リードジャパンカップ開催経験、そして経験豊富な日山協スタッフの指導と、地元伊藤ふたば選手の活躍もあり、予想をはるかに超える 2,000 人もの観客が来場。ボルダリング決勝では入場制限もしなければならないほどの盛況となつた。

大会翌日の岩手日報は成功の見出し。今大会の成功は、協会としても 2 年後のスポーツクライミングアジア大会開催に向けて大きな自信となり選手強化と併せてしっかりと準備を進めていきたい。

「リード・スピード会場とボルダリング会場が離れており、思った以上に時間に追われる運営となった。選手においても暑さも加わり、体力、意識のコントロールが大変だった。」と日山協の村岡スポーツクライミング部長のコメント。

観客からは、同じ会場で三種目を一度に観戦できるコンバインド競技は面白いという感想が寄せられた。

写真、成績　(JMSCA)提供

岩登り講習会兼指導員研修会報告

今年の岩登り講習会兼指導員研修会は、8 月 26 日（日）久慈市侍浜の展望台エリアで開催されました。

研修会には、土井祐之（指導部長）田所一志（指導部：講師、ｱﾙﾍﾟﾝﾛｰｽﾞ）駒ヶ嶺智裕（指導部：講師、北上山岳会）藤原拓（指導部、ハイエストカンパニー）盛合敏男（指導員、福岡山好会）熊谷淳嘉（上級指導員、ｱﾙﾍﾟﾝﾛｰｽﾞ）韮澤優（指導部、翌檜山岳会）赤澤信一（検定、滝沢市山岳協会）吉田克彦（盛岡山想会）塩谷昌弘（ｱﾙﾍﾟﾝﾛｰｽﾞ）佐藤慎吾（秋田県一般）の 10 名が参加。

講師の田所、駒ヶ嶺、土井の 3 名は前日の 25 日（土）から侍浜に入り、講習場所、ルート、講習内容の確認を行なった。夕方、藤原も合流し、翌日の講習内容、役割分担についての確認を行なった。

26 日（日）の朝、侍浜キャンプ場駐車場に集

合し、展望台エリアまで移動し、展望台で開講式を行い、講習会を開始した。天気が心配されたが、昼頃に小雨となったが、気温も２０℃くらいで涼しくクライミングするには最適なコンディションだった。

まず、懸垂下降について説明。マルチピッチを想定し、途中でピッチを切り、別なクライミングロープに移動しての下降を行い研修場所へ到着。その後「入学試験」（ 5.10a ）「Adam's apple」(5.10a)「海は広いな大きいな」(5.8) 等のルートをトップロープで実際に登りクライミング技術とビレー技術についての講習、指導を行った。更に、田所講師から支点構築ついて説明があり、講習生は食い入るように説明を聞いていた。

14:30 に展望台で閉講式を行い、講習会を終了した。

指導部長　土井祐之

東海インターハイ男子岩手高校

6 位入賞、女子盛岡第一　7 位

第 62 回全国高等学校登山大会は、三重県の鈴鹿山脈を会場に 8 月 2 日(木)から 8 月 7 日(火)までの 6 日間にわたり開催されました。今年も連日の猛暑の中での大会となり熱中症等大会運営に当たって医療スタッフからのアドバイス等でそれぞれの 3 コースとも大幅にコースを短縮するなどの安全策が取られました。本県代表の男子の岩手高校は、第 6 位入賞を果たしました。

連覇を目指した女子の盛岡第一高校は、98.5 点という高得点ながら読図での減点が響き、7 位となり惜しくも入賞を逃し悔しい大会となりました。

それでも両チームとも岩手の競技レベルの高さを遺憾なく発揮して立派に戦って頂きました。暑さにも負けず健闘した岩手高校、盛岡一高の選手、監督の皆さんに拍手を送りたいと思います。

○男子メンバー

岩手高校	門舛銀河	熊谷宗平	菊池誠	一戸　藍

○女子メンバー

盛岡一高	西森　優	山下ちひろ	愛木怜依	佐藤百恵

男子　1 位　修道(100.0)　2 位　神戸(99.7)　3 位　藤村(99.6)、4 位　千葉東(99.5)、5 位下末工(99.5)　**6 位岩手(98.8)**

女子 1 位　防府(99.3)　2 位　千葉東(98.9)　3 位　山形西(98.8)、4 位　藤枝東(98.7)、5 位　善通寺(99.6)、6 位　高崎女(98.5)、**7 位　盛岡一(98.5)**

第 61 回東北総合体育大会山岳競技総合優勝

今年の東北総体山岳競技は、12 年ぶりに宮城県での開催。6 年前の開催は東日本大震災被災の影響で岩手開催となっていた。昨年の秋田大会では、大雨のためリード競技が初めて中止となったこと等もあり 6 連覇中の県別総合優勝逃した。今年は福井国体フルエントリーと県別総合優勝の奪還をかけて臨んだ。

初日のボルダリングは、加美町やくらい高原に町営施設として整備された冷房完備のボルダリング施設で

行われた。成年男子、少年女子が 1 位。少年男子が 2 位。成年女子は小差で 3 位につけて二日目のリード競技に臨んだ。リード競技は、会場を仙台市内に移して炎天下の県第二総合運動公園クライミングウオールで実施。少年男女が一位、成年男子が 2 位を収め、総合優勝のトロフィーとともに国体出場権を獲得した。

成年女子は惜しくも 3 位となり国体出場権を逸したが、年齢を感じさせないパフォーマンスを見せてくれた。成年男子、少年男女チームは、10 月 5 日から福井県池田町で開催される国体に出場します。引き続き応援をお願いします。

成績

種 別	選　手	監督	B	L	総合
成年男子	三上誉人、坂本祐樹	佐藤 誠	1	2	1
成年女子	金澤千怜、立花里美	長谷川健太	3	3	3
少年男子	中島大智・石嶋魁人	千葉真英	2	1	1
少年女子	田中里旺・伊藤ふたば	昆 脩太	1	1	1

県別総合

県名	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島
順位	6	1	3	4	5	2
得点	30	126	96	78	69	99

岩手県民体育大会兼国体選手選考会

第70回岩手県民体育大会山岳競技兼国体選手選考会は6月16日(土)にボルダリング競技、17日(日)にはリード競技が実施されました。県体には一般男子2チーム、女子1チームだけの出場で、今後出場チームのあり方、個人競技としての対応等、県民体育大会の趣旨に反しない中での検討が必要となってきました。また、高校山岳部でのスポーツクライミングの取り組みも、ジュニア世代の強化の延長のあり方も含めて検討の必要が出てきました。

大会結果は、次の通りです。

県民体育大会　一般男子			B	L
北上山岳会Ｂ	長谷川健太	三上誉人	1	2
北上山岳会Ａ	昆　脩太	坂本祐樹	2	1
県民体育大会　一般女子				
大迫山岳会Ａ	金澤千怜	立花里美	1	1
少年男子				
盛岡南Ａ	中島大智	石嶋魁人	1	1
岩手高校Ａ	昆野玲士	米倉司哲	2	2
盛岡農業Ａ	伊藤鉄朗	佐々木大輔	3	
盛岡南Ｃ	田口博翔	田村　結		3
少年女子				
盛岡第一Ａ	田中里旺	西森　優	1	1
盛岡南Ａ	西珠莉亜	沼田涼華	3	2
盛岡第一Ｂ	長牛明日香	樋口風香	2	3

岩手山八合目避難小屋を支えるボッカ大将

6月9日(土)、本格的な夏山シーズンを迎え、登山者の安全と快適な登山をサポートする岩手山八合目避難小屋の管理に欠かせない物資の荷上げを行う岩手山ボッカ大将2018が開催されました。ボッカ大将には、13の加盟団体から65名の方々に参加していただき、総荷上げ重量1,197.06 kg

男子三連覇達成の渡辺良平さん(翌檜)

を荷上げして頂きました。一人当たり、男子が18.42 kg、女子が12.40 kgでした。

今年の男子ボッカ大将の渡辺良平さんは強力(ごうりき)三連覇。あの小柄な体のどこにあの強力パワーが隠されているのか。感服。今年の男子は、大激戦。大将揃いでした。

女子の部も上戸さんの34.42ｋｇをはじめ、日頃の山行で鍛えられたエレガントな山ガールのみなさんです。ご協力頂きましたみなさんありがとうございました。

岩手山ボッカ大将の成績　　(単位:ｋｇ)

順位	男　子	女　子
1	渡辺良平(翌檜)53.60	上戸ゆみ(北上)34.42
2	竹田隆介(アルペ)52.04	及川真紀(北上)21.44
3	村上友志(アルペ)48.10	及川トミ(山想)13.66
4	松田博嗣(北上)40.00	佐々木圭子(矢巾山好)13.24
5	及川秀明(北上)35.66	佐藤弘子(巌鷲)13.22
6	鈴木清(巌鷲)35.02	
7	沢口誠(日本山)33.70	
8	千田浩(RCC)31.04	
9	松岡司(アルペ)30.84	
10	駒込幸夫(北上)29.30	

協力団体　翌檜山岳会、北上山岳会、花巻市山岳協会、岩手アルペンローズ、滝沢市山岳協会、盛岡RCC、巌鷲山岳会、盛岡山想会、日本山岳会岩手支部、矢巾山好会、八幡平市山岳協会、都南山岳会、岩手大学山の会、福岡山好会、高体連登山専門部

増え続ける山岳遭難事故

平成30年度岩手県山岳遭難対策連絡協議会定時総会が盛岡市で開催され山岳遭難防止対策に関する協議と情報交換、対策について話し合われました。

平成29年度の全国統計での遭難事故は、前年比88件増の2,583件、遭難者は3,111人、うち死亡、行方不明者は前年比35人増の354人で増加傾向に歯止めが

かかっていない。**岩手県での遭難事故は、47 件、49 人が遭難している。死亡、行方不明者が、11 人、重傷**

12 人、軽傷 7 人、無事救出 19 人となっている。原因別では、道迷い 15 件、滑落、5 件、病気、疲労 11 件、転倒 10 件、熊等の襲撃 6 件、その他 2 件となっている。年代別では、65 歳以上が 31 人 で 63%を占めている。また、遭難態様では約半数が山菜、キノコ採り、特に死亡事故の比率が高くなっている。また、熊等の襲撃事案が複数発生しているのも特徴である。

安易な気持ちでの山菜、キノコ採りでの入山、体力を考えた登山の啓発が一層必要となってきている。

岩手山八合目夏山診療所開設

今年も、7 月 1 日(日)かさの岩手山山開き、8 月 11 日(土)の山の日を中心に中島隆之山岳医(県協会指導部副部長)、友愛病院山の会、花巻市山岳協会の看護師さんの協力を得て岩手山八合目避難小屋夏山診療所が開設されました。

7 月 1 日の山開きには、盛岡で 34 度という真夏日状態の中、1500 名を超える登山者で賑わいました。今年は特に真夏日が続いたせいもあり診療所は大賑わいとなりました。2 日間で 15 名の方がスタッフのお世話になり、2 名の方が防災ヘリで、4 名の方が消防隊員等のサポートで下山を余儀なくされました。

15 名のうち、9 名が熱中症及び関連するけいれん、5 名が捻挫、打撲、外傷、1 名が疲労、睡眠不足で登山中の熱中症、下山時の捻挫、外傷が目立っていました。スタッフのみなさんご苦労様でした。

なお、協会では、登山口に熱中症対策の啓発告知を行い、八合目避難小屋では無理のない登山を呼びかけました。

担当スタッフからは、山開き登山は多くの方が登られることから女性等、水分補強をしても安心してトイレ使用ができるよう途中に簡易トイレ等環境整備の提言も出されています。

2018 鞍掛山トレイルランニング大会

7 月 22 日(日)2018 鞍掛山トレイルランニング大会が開催されました。連日 35 度を超える猛暑日が続き、大会開催そのものも危惧される最近の夏場の気候です。

それでも大会には、124 名のエントリーがあり鞍掛山周辺で力走が展開されました。各クラス三位までの入賞者は次の通りです。昨年の大雨、今年の猛暑と最近天候に左右され一喜一憂の運営に遠藤敏英競技運営部長を中心とした役員の奮闘で無事終了することができました。

成績

クラス	順位	氏名・所属	タイム
一般女子(19 歳～49 歳)	1	樋口由美(滝沢市)	2:09.34
	2	小野寺紗矢(盛岡市)	2:16.14
	3	佐々木裕美(盛岡市)	2:24.52
一般女子(50 歳以上)	1	杉沢千雅子(盛岡市)	2:38.14
	2	女鹿裕子(宮古市)	2:45.48
	3	奥　きぬ子(盛岡市)	2:51.08
一般男子(19 歳～49 歳)	1	矢内正一(滝沢市)	1:34.28
	2	高橋伸也(八幡平市)	1:35.39
	3	八幡竹春(八幡平市)	1:43.20
一般男子(50 歳以上)	1	田村　孝(八幡平市)	1:44.28
	2	橋本　久(盛岡市)	2:06.54
	3	木船　剛(雫石町)	2:08.54
高校女子(12.5 km)	1	伊藤みなと(盛南登山)	1:36.15
	2	中村彩乃(盛南登山)	1:36.22
	3	大欠愛優(盛農スキ)	1:36.53
高校女子(16.8 km)	1	藤本真澄(盛南スキ))	2:14.15
	2	上川原遥(盛南スキ)	2:14.23
	3	滝沢日菜(盛南スキ)	2:14.29
高校男子(12.5 km)	1	菊池広大(盛工)	1:11.33
	2	加藤翔馬(盛南登山)	1:18.55
	3	吉田凛来(盛工)	1:19.30
高校女子(16.8 km)	1	大堰　徳(盛南スキ))	1:40.13
	2	八重樫海斗(盛南スキ)	1:42.04
	3	上山倖大(盛南スキ)	1:46.05

協力団体　翌檜 1、八幡平市山協 3、アルペン 5、巌鷲 6、北上 1、玉山 1、高体連 5、JR3、滝沢市山協 16、都南 1、ハイエスト 1、福岡 1、矢巾山好 5、矢巾町山岳 6(計　54 名)

親子クライミング教室

今年の親子クライミング教室は、例年通り大盛況で、毎回小学校一学年に限定しての募集にも関わらず 150 名を超える参加者があり、関心の高さがうかがい知れます。

教室は。畠山晃専務理事が岩手高校山岳部員及びスポーツクライミング部のスタッフとともに企画、運営に当たっています。

第 57 回全日本登山大会京都大会

第 57 回全日本登山大会京都大会が、6 月 16 日(土)から 18 日(月)の三日間にわたり京都市で開催され、本県から矢羽々文一郎名誉会員、鈴木主計顧問、盛岡 RCC の太野千恵子、玉山会の吉田俊子、滝沢山協の千葉豊、山口吉男の各氏が参加し全国の岳友と交流を深めてきました。

夏山リーダー資格制度について

日本山岳・スポーツクライミング協会主催の「夏山リーダー」（仮称）講師講習会が 8 月 18 日（土）と 19 日（日）の二日間、神奈川県立山岳スポーツセンターで開催され全国から受講者36名　講師24名が参加した。当協会から土井 祐之指導部長が出席した。

＜8 月 18 日（土）＞

11:30~12:30 オリエンテーション

12:30~14:00 夏山リーダー養成講習会の資料説明、シラバスについての説明

14:10~15:10 募集要項の作成、実技講習場所、講習会の採算性等について。15:10~16:10 登山計画書の作成、装備、食料等について。16:20~18:00 気象、読図、ＧＰＳナビゲーションについて

＜8 月 19 日（日）＞

7:30~ 8:30 登山の運動生理学等について

8:30~10:30 セルフレスキュー救急法（外傷）について。10:30~11:30 緊急時対応とセルフレスキュー

11:30~12:30 総括　12:30 解散

今なぜ、「夏山リーダー」資格制度なのか

（1）(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会（日山協）が公益社団法人となり、国民すべての登山教育を束ねる立場となったこと。

（2）昨今の登山ブームで登山愛好者の数は 600 万人～1000 万人ともいわれている。その中で山岳遭難者の数は増え続けており、安全登山を目的とする教育システムが求められていること。

（3）日山協は UIAA（国際山岳連盟）からも一般登山者に対するリーダー教育のプログラム不足を指摘されていた。

（4）日本スポーツ協会（JSPO）は 2019 年度に新しい指導員制度立ち上げに取り組んでいる。コーチⅡ（現上級指導員）コーチⅠ（現指導員）の下に「スタートコーチ」の新設が求められている。

（5）UIAA に準拠した一般登山者の教育システムである夏山リーダー制度を立ち上げ、各都道府県において実施することにより、安全登山の推進、山岳遭難の減少が図られ、更に登山指導員が活躍できる場が増える。また、夏山リーダーの認証を受けコーチ資格の取得を望むものについては、「スタートコーチ」共通科目を受講することにより「スタートコーチ」となることができる。

◎ 夏山リーダーになるためには（教育内容）

（1）内容：日山協で設定したシラバス参照（日山協のホームページに掲載）

（2）教育時間、講習会　4 日間（26 時間）座学と実技講習

（3）実施人数　受講生 6 人～20 人

（4）講師：指導員並びに上級指導員の有資格者

（5）受講料：15,000 円以上（日山協 3,000 円、各岳連(協会)12,000 円）

◎ 夏山リーダーの資格について

（1）「日山協公認夏山リーダー講習会修了者」

夏山リーダー講習会（26 時間）を受講し日山協が認めた者には「夏山リーダー講習会終了証」を発行し「日山協公認夏山リーダー講習会修了者」とする。

（2）「UIAA 公認夏山リーダー」

「日山協公認夏山リーダー講習会修了者」が 1 年間の経験と 10 回以上の山歴を実行後に夏山リーダー検定に合格すると「UIAA 公認夏山リーダー」が授与される。

（3）「JSPO 公認スタートコーチ」

「日山協公認夏山リーダー講習会修了者」が JSPO のスタートコーチ共通科目を受講し合格すると「JSPO 公認スタートコーチ」に認定される。

８ 感想　（1）「夏山コーチ」の名称や教育内容についてもまだ流動的な部分があり、これからの日山協の動向を注視してく必要がある。

岩手県ドイツ・オーストリア・スイス
合宿報告

協会では、岩手県の選手強化合宿の一環として一昨年から行っている スポーツクライミングの本場、オーストリア等での合宿を8月2日から8月14日の12日間実施。

今年は、国体成年男子の強化と本県の持続的選手強化体制を確立するため、畠山晃協会専務理事をヘッドコーチに成年男子の昆脩太(県スポ振)、坂本祐樹(黒工 OB)、三上誉人(岩高 OB)の4名を派遣した。

一行は、8月2日盛岡を出発。4日にベースとなるオーストリアのインスブルックに入った。7日から本格的な合宿に入り、インスブルッククライミングセンターでの実践的合宿、スポーツクライミングの基礎的技術強化のためスイスの自然壁を皮切りにドイツ『ボルダーウエェルトミュンヘンなどで合宿を行い、8月14日帰国した。以下、合宿レポートを紹介します。

● 8/4（土）『ミュンヘンクライミングセンター』

ドイツのナショナルチームが拠点施設として建設された施設。ボルダリングもリードも質・量ともに豊富。

ボルダリングの最近の課題とともに、リードの難度の高い課題は非常に充実している。リード中心に練習を行ったが高さが18mほどもあり持久力トレには最適と感じた。アップで昆選手が興奮のためか左足の膝の腱を痛め足を、引きずる状態となり非常に心配したが氷で冷やすなどして何とか合宿中持たせた。

● 8/5（日）

『インスブルッククライミングセンター』

昨年も来訪したが世界最高の施設の一つと考えられるオーストリアチームの拠点施設であり、当日も外壁のボルダでセット替えを行っての練習が行われていた。スロベニアチームも来訪していた。ここでは特に外壁ワールドカップが行われる壁面にセットされた非常に質の高いボルダリング課題を利用した練習を行うことができた。またリードは20mほどの高さがあり登りきるだけでも非常に有効な持久力練習となった。

● 8/7（火）・8日（水）・10日（金）

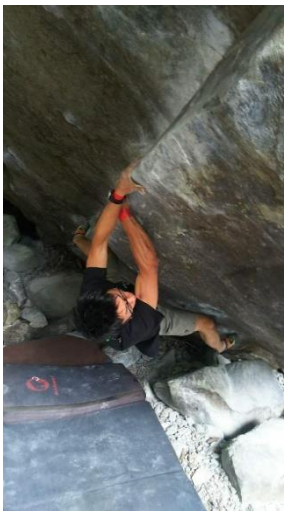
『スイス　マジックウッド　外岩ボルダリング』

今回初めて実施した海外外岩ボルダリング練習である。世界的に著名なボルダリングエリアであり世界中からの来訪者あり。本県の課題であるボルダリング競技での「高度化する強度」に対応するため導入。参加者の力量が揃っているため2段～3段を中心に練習。世界的に有名なネバーエンディングストーリー(5段)も体感することができた。3日間通い参加者全員が3段をクリア。迫力ある岩場での練習は他では得られない魅力と緊張感に満ちていた。

● 8/9（木）「スイス　キロニコ　外岩ボルダリング』

マジックウッドからは峠を越えて50キロほどしかなく、イタリアに近い世界的な岩場であり、空の青さが印象的であった。広いエリアに迫力ある課題が無数に並ぶ。3段は、強度が更に強く、一日での攻略は困難であった。

途中にはクレシアノ岩場も高速道路から見えスイス南部の一大ボルダリングエリアアを俯瞰できた。



● 8/11（土）『インスブルッククライミングセンター』

再びインスブルックに戻りクライミングセンターでの追い込み練習となる。インスブルック⇒マジックウッド間は3時間半で

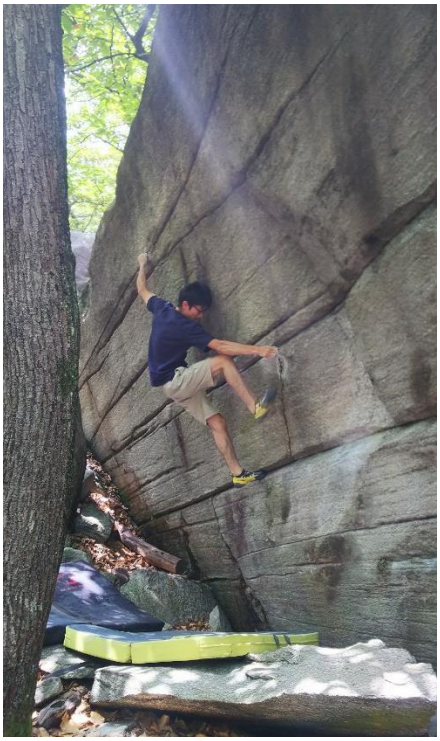
あり。昨年のフランクフルト7時間よりはるかに近い印象であった。外壁ボルダリングはオーストリアチームの練習会で塞がっていたので内壁のボルダリングと外壁リードを中心に練習を行う

連日の登り込みで、疲れが見える中での練習となったが新しい課題にとりつくことができ充実していた。

とにかく課題数が多い。

● **8/12（日）ボルダウェルトミュンヘン店**

練習最終日に立ち寄った。来週にミュンヘンワールドカップを控え、コンペディション壁が充実していた。ここの課題はワールドカップを想定して難しめであった。また、今年は屋外にあるコンペディション壁も触って見る。大きなホールドが設置されていたが課題は簡単めであった。ボルダウェルとミュンヘン店の裏はミュンヘンの東駅でミュンヘン空港まで直通列車が運行されているので。フライトの日でも最後まで練習できるのが非常にありがたい。屋外仮設壁の設置にもヒントになる壁面であった。



今回の合宿で特に良かったと感じたこと。

① **本県の課題に迫る合宿ができたこと**

最近の本県の課題であるボルダリング競技での「強度不足」「最新課題への対応力不足」に関して。

これまでの合宿で「最新課題への対応力不足」については海外最新施設を回るなど、ある程度対応することができた。しかし「強度不足」に関しては有効な対策を取れないでいた。今回外岩ボルダー練習を導入したことで人工壁では初段あたりまでだった強度を一気に2～3段まで上げた練習を行うことができた。今後も良質な初段～3 段前後の課題を数多くクリアさせることで強度への対応力を強化できるものと期待している。

さらにこれを少年勢に広げ、県チーム全体として強度に対する対応力を引き上げたいと考えている。今回来訪したマジックウッド、キロニコ等海外の著名でエリアは一エリアで該当強度の良質課題が多数あり非常に有効であった。国内でも検討したい。

② 本県関係者が一緒に練習できたこと

あたりまえのことであるが、成年となるとこれが一番難しい。今回参加の昆(盛岡)、坂本(埼玉)　三上(宮古)は 3 人一緒での練習は高校卒業以来一度も無かったと思われる。今回約 10 日間であるが一緒に練習できたことが 3 人とも非常に楽しく、また切磋琢磨し力を高め合えたとのことであった。初段も登ったことが無かった三上選手がいきなり 3 段まで登れたのも気心の知れた仲間のアドバイスと、彼らが登れるなら自分も登れるとの思いからと思われる。現在本県男子の有力選手は就職や進学で地元を離れている。これがボルダリングでの強度不足や対応力不足の一因と考える。今後も機会を捉えて合同練習を設定したいと考えている。

③ 海外外岩ボルダリングのノウハウを把握できたこと

海外外岩ボルダー実施で大きな課題であったのが、ボルダリングマットの確保であった。持参するのか、現地で購入するのか、事前に輸送するのか。今回は確実性を重視し航空機に持ち込み持参することにした。高額な追加料金を取られるとの話もあったがエミレーツ航空は 1 人当たりの持ち込み荷物の重量 30 キロしか制限が無く、大きさによる追加料金は請求されなかった。また現地での輸送もこれまで利用してきたレンタカーに収まるサイズであり、車で運ぶことができた。また各エリアで目指す岩場の場所を記した地図(トポ)を事前入手しておくことが重要である。

今回は坂本がマジックウッドのトポを事前に輸入し目指す岩場を特定してくれていたので、現地を混乱なく回ることができた。キロニコについてはマジックウッドの売店で最後の一冊を購入できたのはラッキーであった。翌日さっそくキロニコで練習することができた。

海外合宿に参加して　　昆　脩太

今回の合宿では、ワールドカップの会場や海外の有名な自然壁で登り、普段では体験できない練習をすることができ、非常に充実した合宿だった。

初日はミュンヘンクライミングセンター。リード、ボルダー共に充実した施設であり、海外のスケールの大きさを改めて感じた。日本のリード施設では大きいホールドが少ないが、こちらのルートは大きいホールドが多く使用されており、よりコンペに近いルートで練習することができた。その分、単純な保持力以外に体幹や体の使い方などが重要で、自分にはまだまだ足りていない部分だと実感した。

2 日目はワールドカップ会場のあるオーストリアインスブルックへ移動。その日はスロベニアのナショナルチームも練習を行っており、トップ選手たちの登りを間近で見ることができた。施設はやはり大きく、ホールドも豪華に付けられており、どの課題も登りたくなるようなものだった。屋外のボルダー壁はコンペティションウォールのようになっており、ワールドカップさながらの課題が並んでいた。

そこでは日本のジムではできないような大きな動きを必要とするコーディネーション系の課題を練習することができた。一回で登れなくても、そこから修正して時間内にいかに少ない回数で登れるかが重要であると感じた。

3 日目はレスト、4 日目からはスイスの自然壁へ。マジックウッドにキャンプ場があり、岩を登りに来た多くの人が寝泊まりしていた。トポを見ながら岩場へ向かうと、ありとあらゆるところに岩(課題)があり、有名である理由がわかった気がした。マジックウッドへ 3 日間、キロニコへ 1 日行ったが、まだまだ登り足りないような気がした。グレードは日本の岩よりも少し登りやすく感じたが、3 段以上になると、やはりそう簡単には登れなかった。普段、日本では岩場に行く機会は少なく久しぶりの外岩だったが、人口壁とはまた違った達成感があり、とても楽しかった。これからは国内の岩場もめぐりたいと思ったのと同時に、また戻ってきて登れなかった課題を登りたいと強く思った。最終日はドイツへ戻り、ミュンヘンのジムで最後の練習を行った。最終日ともなると、指皮もなく疲労もたまっていたが、滅多に触ることのない課題なので一通り

触り、練習を終えた。

昨年は少年達との合宿で、若者についていくのが大変な時もあったが、今回は成年のみということで、リラックスした気持ちで合宿に臨むことができた。力の合った仲間とのクライミングはとても楽しく、改めて自分のクライミングを見直すことができた気がした。今回の経験を活かして結果を残していきたいと思ったのと同時に、指導する側としても子供たちに何か伝えれるようにしたいと思った。

昨年に引き続き、海外遠征に参加させていただき本当にありがとうございました。

海外合宿を終えて　　坂本 裕樹

８月２日～１３日に行われた岩手県山岳協会の海外合宿に参加させて頂いたことについて。まず、個人的に海外に行くことが初めてだったので、お互いに良く知る仲間とこういった機会に行けてとても心強く感じました。そして、ドイツ・オーストリア・スイスのヨーロッパの３カ国のクライミングを体感して感じたことを日付順に書こうと思います。８月３日にミュンヘンに到着、１泊し４、５日はそれぞれミュンヘンとインスブルックの国立の人工壁でトレーニング。

ボルダーは多面的な壁形状で１つの課題をトライするだけでも緩傾斜から強傾斜へと変化があり、とても面白い課題が多かった印象でした。リードも形状変化が多彩なうえ、日本国内の一般的な壁よりもさらに高さがありトレーニングをする環境としては最先端なんじゃないかと感じました。その後、６日はレストの日として１日体を休め、７日～１０日はスイスに移動しMAGIC WOODとCHIRONICOの自然岩でのクライミング。

今回は参加者のクライミングレベルが同じくらいだったので、強度の高い初段～三段の課題を多くトライできとても楽しめました。人工壁とは違った理不尽な動きに対応する為の我慢強さも必要なため、これもいい経験になったと思います。

そして１１、１２日はインスブルック、ミュンヘンに戻りボルダーメインのトレーニング。

連登のためか疲労も溜まっていて激しいクライミングは出来なかったけど、やっぱり楽しい課題が多いせいで、良い追い込みトレーニングになったと思います。

今回の合宿全体を通しての感想は、短期間で様々な要素のトレーニングが効率よくできたのではないかと思っています。実際に海外のワールドカップ会場など最先端の環境でトレーニングすることは選手として活動する人にとってはもちろんですが、自分のようにジムで働く人間、セットや大会運営する裏方の人間にとっても貴重な経験になると感じましたので、このような機会を今後も設けてもらいたいと思いました。そしてもし、今後もこのような機会があればぜひ参加させて頂きたいと思います。

海外合宿に参加して　　三上誉人

まず初めに、国体海外合宿を主宰してくれました、岩手県山岳協会に感謝申し上げます。

今回の合宿は移動日も含め８月２日～8月14日までの12日間で行われ、ドイツ・オーストリアスイスの３か国をまわりました。

私にとって海外は初めてで、言語問題、食問題、時差問題などいろいろな不安要素を抱えながら日本を出発しました。しかし、ドイツに着いてみると、ドイツ語や英語がわからない私でもジェスチャーや、うろ覚えの単語で何とかなり、伝えたいという気持ちの問題で何とかなると感じました。

リード・ボルタリングは初日、ドイツの「ミュンヘン国立クライミングセンター」に移動して行いました。ふだんあまりリードをやらない私にとっては、リードをやる絶好の機会チャンスだったので必死に登り、課題もとても豊富で飽きることが無く、とても楽しかったです。2日目はオーストリアの「インスブルック国立クライミングセンター」で登りました。第一印象として「こんな良い場所で毎日登れたら絶対強くなる」でした。なぜかというとリードでは垂壁からオーバーハングまで壁が整っており、課題数が今まで見たこともないぐらい多く、ボルダリングでは練習ウォールに加え、大会用の壁まで設置されており、ホールドも国際大会に使用されているクオリティの高い物ばかりでした。とても刺激的で岩手県にもこの壁が欲しいと思いました。

3日目はレスト日ということで、ゆっくり街を観光してきました。インスブルックの町の景観はとても素敵で、歴史的価値のある建造物がいくつも列をなし、その背後にそびえる山々は、迫力があり風光明媚で筋肉痛を忘れるほどでした。

夕食もとてもおいしく、ビールに合うものばかりで、大満足な3日目でした。4～7日目は、私が個人的に一番楽しみにしていた、自然壁でのボルダリングを行いました。自然壁でのボルダリングは、ほぼ初めてで、しかもスイスの有名な「マジックウッド」と「キロニコ」、不安要素しかなく緊張していましたが、チームメイトに支えられ、普段は手も足も出ない3段の課題を登ることができ「あー海外にきて本当に良かった」と素直に思いました。

8～9 日目はオーストリア・ドイツに戻り、最後の追い込みをかけ、リード・ボルダリングを限界まで登りつくしました。

今回の海外合宿で断言できることは「絶対に強くなった」の一言です。普段こんなことは思わないのですが、今回の合宿で、日頃の練習で味わうことのない刺激的な部分と「今回登らなければ、次は一年後、あるいは一生登ることができない」という意志が自分をとても強くさせたと感じます。

最後に、選手として、そして一人の人として、とても成長させてもらいました。本当にありがとうございます。

初めての国体海外外岩ボルダリング合宿

畠山　　晃

今年度も海外合宿を実施できたことについて岩手県山岳協会そして岩手県体育協会に改めてお礼申し上げます。今回初めて海外外岩ボルダリング合宿を行うことができました。これは前から選手達から要望がありましたが下記の課題があり、ありなかなか実現できなかったものです。

坂本、昆、三上(左から)

まずわからないのが海外の岩場の場所である。施設であれば施設名や住所、電話番号で地点を割り出せる。しかし自然の岩場に住所は無い。ネットで様々な人の岩場を訪れた記録や映像を探したが町の名前や、拠点名を探せなかった。やっとマジックウッドのキャンプ場（Bodhi Camping）の名前を探し当てることができた。しかし一般のナビでは検索をかけても全くヒットせず地点名を特定できなかった。一方、概略図を載せている記録に行き当たり地点の概要を把握することができた。私の海外ナビでおおよその地点にマークしその地点を目指すことにした。その場所はイタリア側からアルプスの最初の山脈を超えたスイス側の谷筋にあった。ずいぶん奥深い場所だな、たどり着けるか不安であった。

次に課題であったのがボルダリングマットの確保であった。これについては報告に書いたので詳細はそちらに参照頂きたいが、昨年から東京のクライミングジムの店長をしている坂本に情報を集めてもらった。ほとんどの人が飛行機に積み込み持っていくとの情報であった。そこでエミレーツ航空に確認したところエミレーツは重量の制限はあるが大きさの制限はないとのことで持参することにした。そしてレンタカーに載るかも心配であった、昨年レンタルした車の写真をもとに3連マット一枚と、2連マット一枚であれば何とか載せれそうなことが分かった。実際自分たちの荷物もあるのでこれがいいところであった。次に問題なのが現地岩場の地図（トポ）が無いことだった。これも坂本に相談するとマジックウッドは世界的に有名なので何とか手に入れるとのことで、そちら方面はすっかり坂本にお任せした。ただしキロニコとクレシアーノのトポは現地でないと入手が難しいとのことであった。このようにして何とか実施した海外外岩合宿であったが、この状況を考えるとやはり今年でなければ実施は難しかったように思う、様々な情報が東京を拠点としている坂本からもたらされるものが多かった。マジックウッドと世界的には有名でも実際行ったことのある人は、地方では全くいないのが実情であり、情報の収集は進めれなかったと思う。

そうして実施した初の海外外岩合宿であったが、まだまだ怪我の場合の対応やら、考えると課題はたくさんあるが、まず実施してみて非常に大きな効果があることは分かった。海外ボルダーの良さはとにかくルートの本数があり良質（手頃）な課題を見つけやすい。国内ではこれだけの本数が揃う岩場はなかなか見つからない。非常に効率よく初段以上の強度を高める練習を行うことができる。

今後も機会を見つけてこのような合宿ができればと考えている。国体で活躍しその環境を整えていきたいと考えている。海外合宿の魅力は何といっても選手達が大きく伸びることである、今年参加した選手達も国体そして様々な場面で今回の合宿の成果を発揮してくれると期待している。

第 2 回理事、スタッフ合同会議報告

◎日時　平成30年7月25日（水）19時00分～21時00分◎場所　盛岡市　(公財)岩手県体育協会会議室
◎出席者　高橋、菅原、吉田、武田、小山、畠山、植田、佐藤(誠)、小野寺、土井、遠藤、山口、中島、十二林、渡辺、藤原、田中、三浦、佐藤(幸)、長畑
◎会長挨拶
協会行事も佳境に入り、多忙な中皆さんの協力で予定通り実施できていることに感謝したい。コンバインドジャパンカップの成功、山小屋管理、県体、トレラン大会等猛暑の中、神経を使う行事も無事に終了している。今後も危機管理意識を忘れないで事業の執行に協力をお願いしたい。
◎報告
・日山協総会について
・各種規程の制定施行　5/1施行分
①一般社団法人岩手県山岳協会総会規程
②一般社団法人岩手県山岳協会加盟団体規程
③一般社団法人岩手県山岳協会組織・管理規程
④一般社団法人岩手県山岳協会理事会規程
⑤一般社団法人岩手県山岳協会積立金設置規程
・各種規程の制定施行6/6施行分
①一般社団法人岩手県山岳協会表彰規程
②一般社団法人岩手県山岳協会名誉会員、顧問、参与に関する規程
③一般社団法人岩手県山岳協会賛助会員に関する規程
④一般社団法人岩手県山岳協会会計処理規程
⑤一般社団法人岩手県山岳協会予算管理規程
⑥一般社団法人岩手県山岳協会事務局規程
・一般社団法人岩手県山岳協会法人届出の完了
盛岡税務署、盛岡市役所
・東北六県岳連(協会)連絡協議会について
・スタッフの追加委嘱について
角掛　実(玉山会)、近藤修三(植物山想会)の両氏
・岩手県山岳協会30年度上期表彰者の決定
大坊孝男氏(玉山会)、村上伸男氏(翌檜)
・協会事業協賛企業の募集について
いわて電力㈱との契約締結　7/1付け
協賛金300,000円
・岩手県民体育大会山岳競技兼国体選手選考会
・コンバインドジャパンカップ2018盛岡大会
・2018鞍掛山トレイルランニング大会について
・登山・スポーツクライミング技術講習指導マニュアルの改訂
・沢登り講習会兼指導員研修会及び岩登り研修会兼指導員研修会の受講者状況について
・日山協遭対委員会について
・日山協山岳上級指導員検定結果について
中島隆之、田所一志指導員合格
・岩手山ボッカ大将報告
・岩手山八合目避難小屋の管理運営状況
・夏山診療所開設状況について(7/1)
・岩手県山岳遭難対策委員会総会(岩手山関係)7/19
・日本の名峰登山参加状況について
・ジュニア登山教室について
・東北総会出場選手監督の決定
・日本ユース選手権大会結果報告について
・八王子ワールドカップ結果について
・親子スポーツクライミングリード、ボルダリング、スピード教室について
◎その他
・スポーツクライミングにおける事故防止について(他県で滑落事故が発生しているので確認基本動作の厳守の徹底。)
・高所作業車での作業一資格者、安全帯、ヘルメットの着用、マニュアル厳守
◎協議
・日山協理事選任制度の改正への対応について
ブロック理事を現在9名を5名とし、4名の常務理事増員の検討中、東北ブロックと北海道ブロックの統合等、地方ブロックの意見等の繁栄の確保に留意すべきと提言中(会長)。
・岩手県山岳協会各事業区分における上期財務執行状況について
・法人化に伴う山協ホームページリニューアル
・日山協夏山リーダー制度について
・国体山岳競技監督資格について
将来SC指導員に限定の方向。
・県営運動公園登攀施設の利用促進対策について(スピード、リード、2020五輪対応の合宿招致)
・2020アジア大会対応について
ボルダリング施設の整備について
・選手強化海外合宿について
成年男子3名派遣＋専務理事
・山協ニュース第206号発行について
経過報告(平成30年6月9日以降)
6/9(土)　ボッカ大将　岩手山

6/10(日)　山協ニュース 205 号発行
6/10(日)　コンバインド競技役員研修会議　盛岡
6/16(土)～17(日)東北総体審判会議　仙台
6/10(日)　日山協定時総会　東京
6/14(金)　(公財)岩手県体育協会評議員会　盛岡
6/16(土)-17(日) 県民体育大会・国体選手選考会 盛岡
6/16(土)-18(月)　全日本登山大会京都大会
6/16(土)～10/8(月)　岩手山八合目避難小屋常駐開始
6/22(金)-24(日) スポーツクライミングコンバインド・ジャパンカップ2018盛岡 県営運動公園
6/23 (土) -24 (日)　日山協遭難対策委員会総研修会 東京海員会館 (晴海)
6/30 (金) -7/1 (日) 東北高等学校登山大会 秋田駒ヶ岳
6/30 (金) -7/1 (日) 岩手山八合目臨時診療所開設
7/1(日)　岩手山山開き
7/12(木)　日山協常務理事会　東京
7/19(木)　岩手県山岳遭難対策連絡協議会総会　盛岡
7/22(日)　鞍掛山トレイルランニング大会　滝沢
7/25(水)　第 2 回理事、スタッフ合同会議　盛岡
7/27(金)-29(日)　東北総合体育大会山岳競技　宮城
8/4(土) -14(日)　スポーツクライミングヨーロッパ合宿
8/7(火)　2020 アジア大会打合せ　盛岡市役所
8/8(水)日山協常務理事会　東京
8/10(金)-11(日)　ジュニア登山教室　岩手山
8/11(土)　山の日　岩手山八合目診療所開設
8/19(日)　2020 アジア大会打合せ　盛岡
8/26(日)　サマーセッション　盛岡
8/29(水)　盛岡アジア大会打合せ　県庁
8/30(木)-2(日)　名峰登山
8/30(木)　日山協常務理事会　東京
8/31(日)　山協ニュース 206 号発行

今後の予定

9/8(土)　日山協臨時理事会　東京
9/12(水)　県山協第 3 回理事会　盛岡
9/28(金)-30(日)　高体連新人戦　早池峰山
10/1(月)　選手強化支援会議　盛岡
10/5(金)-7(日) 福井国体
10/11(木)　日山協常務理事会　東京
10/20-21　岩手山小屋仕舞い　岩手山
10/21(日)　ボルダリング大会　盛岡

いわて電力株式会社協賛契約を締結

一般社団法人移行に合わせて取り組んでいます協会の財政基盤の強化の一環として、このほど「いわて電力株式会社(代表取締役　笠井　健)」のご厚意で岩手の山岳スポーツ、スポーツクライミングを応援したいとの申し出を受け 7 月 1 日付で協賛契約を締結しました。

協会としては、各種大会でのいわて電力㈱の紹介のためプログラム掲載、ゼッケン、旗、ホームページ、山協ニュース等での掲出紹介を行うとともに、いわて電力の企業 PR に協力するものです。契約期間は、1 年間です。

笠井社長と高橋会長

また、電力販売の自由化に伴い、いわて電力との電力供給契約についてスポーツクライミング支援ということでの契約の場合、一定の率で、財政支援を受けることができるシステムとなっています。

協会としては、登山、スポーツクライミングの普及、選手強化、大会、協会運営面でのボランティア支援の改善や事務局体制の充実も含めて持続的体制強化のため、引き続き企業支援の道を探っていきたいと考えています。

ご支援を頂ける企業等募集中です。

応援しています。

岩手のスポーツクライミング

いわて電力
IWATE ELECTRIC POWER

編集担当

真夏日続きと相次ぐ台風の到来等、昔は、「災害は忘れた頃にやって来る。」と言われていましたが、最近は日常的。山で培ってきた、非常時対策の経験が生かされないことを祈る昨今です。山協ニュース、山のニュース掲載を気にしながらも、時節柄かスポーツクライミングのページが多くなってしまいました。